

## 「著名的無名人」 を訪ねて

業は、『集団作業』であり『和の絆』がなければ、とても達せられるものではないだろう。

「さかうえ」のホームページや、同社の概要を示すパンフレットを見ると、ここに掲載したような、従業員と坂上が歓談する写真などが、かなり掲載されている。

これは正に、そういうことが極めて重要であることを、示すものでもある。

一方、熊本県知事の蒲島は、今地方の時代を目指して、道州制の実現に向け意欲を燃やしている。その基本に、坂上隆が実施しているような、農場再生の着実な実現が、大きな参考になるだろうと思う。

(以下次号に続く、敬称略)

チェックし、成長度合いを十分に記録する。さらには、給水がきちんと行われているかどうか。山ろくや森林に接したところや、野生動物などの侵入被害は生じていないだろうかというようなきめ細かい点検が必要である。畑を荒らされていたり、ビニールハウスが壊されたりしていないだろうかの点検が必要である。

また、台風接近が報じられれば、そのための補強対策をする必要もある。

こうしたことを、従業員は責任を持って管理していくことになる。もちろん、従業員が独り立ちするには、相当な教育が必要だろう。社長の坂上の極めて重要な仕事に、この「農作業」というものについての一人ひとりの、「能力に応じた知識と技能の伝授」ということがある。

さらに今回は、そこまでに至るための、それぞれの分散錯圃の土作りという大変重要な農業の基礎について、若干述べることになるが、いずれにしても農

も6千坪(2町歩)を、受け持っていることになる。1カ所が1町歩強であるから、仮に1カ所の周囲をぐるっと見廻るだけで、約400坪を歩くことになる。

若者の足で、ただ歩くだけなら5分程度だが、畑を廻るのだから、そうはいかない。

### ケール、馬鈴薯、ピーマン、 キャベツ、ネギ

現在、「さかうえ」の30万坪の農場が作っている作物は、殆どが日本人の毎日の食卓に欠かさない野菜すなわち馬鈴薯、ピーマン、キャベツ、ネギであり、もう一つが健康食品「青汁」の主成分のケールである。

馬鈴薯すなわちジャガイモやキャベツなどを除いては、ビニールの中でのきちんとした光と温度センサーを活用した、作業が中心である。

よって、先ほど1町歩強の畑をぐるっと見廻るだけなら、歩いて5、6分と述べたが、目視で検分しあるいは温度計などを

農業を、事業として経営することによって、地域社会の一員として世の中に貢献しているという《自覚》を生み出すことである。もちろん、農業生産法人というれっきとした法人、すなわち会社であるから、経営として利益が上がり成長していかなければ意味が無いだろう。

それを果たすこと、これがそれぞれの従業員に与えられた人生の生き甲斐だというモチベーションを、社長の坂上は単なる言葉だけではなく、仕事の実践を通じて実行している。

390カ所、90畝といえ、すなわち30万坪という広大な農地の空き地を、彼らは今緑豊かな畑、そしてビニールハウスの鮮やかな生きた姿に変えたのである。考えてみると、大変な活力を地域地方に与えているのだ。

したがって、49人の従業員1人当たりになるとどのくらいになるのか。

単純に割り算すると、約8カ所合計2畝すなわち、少なくとも